



寺口麻穂

ドギーパラダイス!

犬と人間の快適な生活

第1回

犬のころ ①

引き取った愛犬はピットブル

「前世は犬だったんですよ」と真剣な顔で話すと、笑顔で理解してくれる人もいれば、妙な顔をして離れていく人もいます。でも、私は真面目にそう思っているんです。物心付いた時からとにかく犬が好きで、犬たちと巧みにコミュニケーションが取れるので、彼らの気持ちがよく分かる。かれこれ何千匹の犬を扱ってきたけど、未だに噛まれたり、追いかけられた経験はなし。何よりも犬が好き。三度の食事より、男性より？ それは

ともかく(笑)、とにかく犬が大好き！ そんな私でも「犬の専門家になろう！」なれる！」と思っただけで、ここ最近のこと。それまでは、教師の道を歩んだり、文化人類学を専攻して「人間の専門家」を目指していました。

10年半前、長年の夢だった犬を飼うことを決め、「飼うなら必ずホームレス犬にセカンド・チャンスをおあげよう！」と決めていたので、すぐに地元のシェルターを訪れ、そこで愛犬ジュリエットと出会いました。ジュリエットは、その時シェルターに居た犬の中でもっとも貰い手が見つからない犬でした。

世間から凶暴とのレッテルを貼られているピットブル。身体中、噛まれ傷だらけで骨と皮だけの有様。おまけにハートウォームという病気の治療中。シェルターの人たちも、この子の引き取り手が現れるのは奇跡と思っていたそうです。そこへやって来た私は、犬種の好き嫌いやこだわりもなかったため、シェルターのスタッフに「この人なら！」と見込まれたのが、口説き落とされ彼女を引き取ることに。そしてこの出会いが私の人生を大きく変えることになりました。

最初の一年はとにかく試行錯誤でした。ピットブルということもあって、住んでいたアパートは追い出され引越。仕事でたくさんになった後、数週間トレーニングクラスにも通い、ピットブル専門家から個人レッスンも受けました。虐待されていた可能性が高い彼女は、当初は何かとびくびくし、色々な物音にも怯え、体の大きい人や子供を大変怖がりました。

また、ピットブルを飼い始めたこと話すと「気をつけなさいよ」と脅かされたり、「プロテクションのために飼ったの？」ともよく聞かれました。そして、飼って3日目に腹をくつたのです。「もし、この子が急に凶暴になり、寝ている間に襲いかかって来て殺されたら、それは運命。やるならやってみよう」と。愛犬ジュリエットのこと、絶対に怖がらなくなりました。そうして開き直ったこと、護衛にピットブルを飼ったのではなく、この子を守ってやるのが私の使命だと思っただけで、私たちの関係作りに大きく影響したのではと思います。

と思います。統計的に見ると「家族・友人・知り合いからもらった、譲ってもらった」というのが一番多いようです。ペットショップやブリーダーからの購入という手段もありません。

シェルターから犬を引き取る人の数は、最近ではどんどん増えてきているとは言うものの、シェルターはかつてはパウンド(収容所)と呼ばれ、そこに居る犬達の目はみんな死んでいるようで、そして、問題のある犬しか収容されていない。訪れると、悲しさと自責の念だけを引っ張って帰ってくるような……そんな印象があったように思います。しかし3年前、日本から母親が遊びに来た時にシェルターに連れて行つたのですが、いやあ驚いてました。犬たちはスタッフやボランティアに懐き、お散歩に連れていってもらって楽しそう。犬舎もきれいに掃除され、プランケット付きのベッドが設置されていて……。最初は戸惑っていた母も帰り際にはどこか安心顔でした。

確かにシェルターに足を踏み入れるのは勇気がいります。正直言うと、私自身も初めて訪れた際、帰りの車でしくしく泣きました。動物好きなら尚のことだと思えます。全員助けたい。一匹を選ぶのなんて無理……というコメントをよく聞きます。どうしても感情的に圧倒されてしまったため、冷静な判断が出来なくなる可能性も大きいでしょう。

実はすごいツールがあるんです！ ペットファインダー(www.petfinder.com)というサイトをご存知ですか？ このサイトはニュージャーシーの夫婦が、インターネット普及の波を利用し

て、「新しいペット探しをオンラインで！」というコンセプトから1996年に設立。今では1万軒以上のシェルターやレスキューグループが登録し、掲載されている動物の数は常に20万匹以上。これなら、シェルターに実際足を踏み入れ、感情に押し流されておろおろせず、ベツト探し出来るかもです。ね。

「犬を飼おうかな？」とお考えのみなさん、また周りにそう考えている友人・知人がいたら、今月10月は「シェルター犬アダプション月間」であることを覚えておいてください。これに合わせて、多くのシェルターやレスキューグループが様々な催し物を実施して、より多くの人にシェルターの犬の顔を変えてもらおう、アダプションを成功させようと頑張っていますので、ちよつと地元のシェルターを覗いたり、またPetfinder.comなんかも検索してみてください。どうでしょうか？

さてさて、これからしばらく連載で、愛犬ジュリエットとの心温まる話やシェルターでの体験談なども交えながら、「犬のころ」を説き、犬と人間の楽しく快適な生活のアドバイスをお届けしていきます！ と張り切っていますので、どうぞお楽しみに！



「ピットブルだからといって偏見もたないで」(ジュリエット)



愛犬ジュリエットと筆者



10月は「シェルター犬アダプション月間」

ところで、今月は「National Adopt-A-Shelter-Dog-Month」です。先程触れたように、私自身は愛犬を見つかるのにシェルターを訪ねましたが、犬をゲットする方法には他にも様々な形がある



てらぐちまほ 在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わり、個人ではDoggie Project(www.doggieproject.com)というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供しつつ、13歳になるピットブル、ジュリエットとニュージャーシーで楽しく生活中。ご意見・ご感想は：info@doggieproject.com